

漢文句法① 再読文字【解答】

※書き下し文・口語訳では、会話終わりの「と」は省略

1 未<sup>ダ</sup>識<sup>ラ</sup>

書き下し文 未だ識らず。

口語訳 まだ知らない。

2 未<sup>ダ</sup>成<sup>サ</sup>眠<sup>リ</sup>

(書) 未だ眠りを成さず

(訳) まだ眠ることができない。

3 未<sup>ダ</sup>嘗<sup>テ</sup>敗<sup>セ</sup>北<sup>一</sup>。

(書) 未だ嘗て敗北せず。

(訳) まだこれまで負けたことが無い。

4 未<sup>ダ</sup>聞<sup>カ</sup>好<sup>ム</sup>学<sup>ヲ</sup>者<sup>ヲ</sup>也<sup>一</sup>。

(書) 未だ学を好む者を聞かざるなり。

(訳) まだ学問を好む者を聞いたことが無いのである。

5 将<sup>ニ</sup>行<sup>カ</sup>行<sup>ト</sup>。

(書) 将に行かんとす。

(訳) 旅立とうとしている。

6 将<sup>ニ</sup>限<sup>ラ</sup>限<sup>ニ</sup>其<sup>ノ</sup>食<sup>ヲ</sup>。

(書) 将に其の食を限らんとす。

(訳) その食料を制限しようとする。

7 将<sup>ニ</sup>出<sup>デ</sup>獵<sup>セ</sup>獵<sup>ト</sup>。

(書) 将に出でて獵せんとし

(訳) 出かけて狩りをしようとして

8 将<sup>ニ</sup>入<sup>ラ</sup>入<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>井<sup>一</sup>、

(書) 将に井に入らんとするを

(訳) 今にも井戸に落ちようとするのを

9 将<sup>ニ</sup>搏<sup>タ</sup>搏<sup>ニ</sup>其<sup>ノ</sup>輪<sup>ヲ</sup>。

(書) 将に其の輪を搏たんとす。

(訳) 今にもその車輪を攻撃しようとする。

10 且<sup>ニ</sup>飲<sup>ン</sup>。

(書) 且に飲まんとす。

(訳) 今にも飲もうとする。

11 趙<sup>ニ</sup>且<sup>ニ</sup>伐<sup>タ</sup>伐<sup>ニ</sup>燕<sup>ヲ</sup>。

(書) 趙且に燕を伐たんとす。

(訳) 今にも燕を攻めようとした。

12 有<sup>リ</sup>且<sup>ニ</sup>買<sup>ハ</sup>買<sup>ニ</sup>履<sup>ヲ</sup>者<sup>一</sup>。

(書) 且に履を買はんとする者有り。

(訳) 履物を買おうとする人がいた。

13 且<sup>ニ</sup>為<sup>ラ</sup>為<sup>ニ</sup>所<sup>ト</sup>虜<sup>ス</sup>。

(書) 且に虜とする所と為らんとす。

(訳) 今にも捕虜にされてしまうだろう。

14 且<sup>ニ</sup>屠<sup>ラ</sup>屠<sup>ニ</sup>大<sup>ノ</sup>梁<sup>ヲ</sup>。

(書) 且に大梁を屠らんとす。

(訳) 大梁を皆殺しにするだろう。

15 当<sup>ニ</sup>勉<sup>ス</sup>励<sup>ス</sup>。

(書) 当に勉励すべし

(訳) 当然努め励むべきだ。

16 吾<sup>ニ</sup>当<sup>ニ</sup>王<sup>タル</sup>関<sup>ニ</sup>中<sup>一</sup>。

(書) 吾当に関中に王たるべし。

(訳) 私が当然関中の王となるべきである。

17 当<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>人<sup>ヲ</sup>禱<sup>ル</sup>。

(書) 当に人を以て禱るべし。

(訳) 当然人を生けにえにして祈るべきである。

18 当<sup>ニ</sup>敵<sup>ニ</sup>血<sup>ヲ</sup>而定<sup>ム</sup>從<sup>ヲ</sup>。

(書) 当に血を敵りて從を定むべし。

(訳) 当然血をすすって同盟を誓うべきである。

19 当<sup>ニ</sup>由<sup>ニ</sup>貧<sup>ニ</sup>困<sup>ニ</sup>。

(書) 当に貧困に由るべし。

(訳) きつと貧困によるのだろう。

20 当<sup>ニ</sup>王<sup>ニ</sup>天下<sup>ニ</sup>。

(書) 当に天下に王たるべし。

(訳) きつと天下の王となるだろう。

21 当<sup>ニ</sup>至<sup>ニ</sup>馬<sup>ニ</sup>陵<sup>ニ</sup>。

(書) 当に馬陵に至るべし。

(訳) きつと馬陵に到着するだろう。

22 当<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>聖<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>適<sup>ニ</sup>周<sup>ニ</sup>。

(書) 当に聖人ありて周に適くべし。

(訳) きつと聖人が現れて周に行くだろう。

23 当<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>能<sup>ニ</sup>禦<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>者<sup>ニ</sup>。

(書) 当に能く之を禦ぐ者有るべし。

(訳) きつとこれを防ぐことができる者がいるだろう。

24 応<sup>ニ</sup>憐<sup>ニ</sup>。

(書) 応に憐れむべし

(訳) 当然憐れむべきである。

25 応<sup>ニ</sup>束<sup>ニ</sup>帶<sup>ニ</sup>見<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>。

(書) 応に束帶して之に見ゆべし。

(訳) 当然礼装をしてこの方にお会いになるべきです。

26 応<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>優<sup>ニ</sup>賜<sup>ニ</sup>。

(書) 応に優賜あるべし。

(訳) 当然十分な恩賞があるべきだ。

27 応<sup>ニ</sup>知<sup>ニ</sup>故<sup>ニ</sup>郷<sup>ニ</sup>事<sup>ニ</sup>。

(書) 応に故郷の事を知るべし

(訳) きつと故郷の事を知っているだろう。

28 応<sup>ニ</sup>未<sup>ニ</sup>眠<sup>ニ</sup>。

(書) 応に未だ眠らざるべし

(訳) きつとまだ眠っていないだろう。

29 今日爾<sup>ニ</sup>應<sup>ニ</sup>知<sup>ニ</sup>。

(書) 今日爾應に知るべし

(訳) きつと理解しただろう。

30 宜<sup>ニ</sup>授<sup>ニ</sup>他<sup>ニ</sup>職<sup>ニ</sup>。

(書) 宜しく他職を授くべし。

(訳) 他の職を与えるのがよい。

31 宜<sup>シク</sup> 徙<sup>シ</sup> 備置<sup>ヲク</sup> 吳<sup>ニ</sup>。

(書) 宜しく備を徙し吳に置くべし。

(訳) 劉備を移動させ呉の国に置いておくのがよい。

32 宜<sup>シク</sup> 早定<sup>クム</sup> 計<sup>ヲ</sup>。

(書) 宜しく早く計を定むべし。

(訳) 早く計略を決定するのがよい。

33 宜<sup>シク</sup> 密観<sup>カニル</sup>。

(書) 宜しく密に観るべし。

(訳) こつそり見るのが良い。

34 宜<sup>シク</sup> 在<sup>ル</sup> 高位<sup>ニ</sup>。

(書) 宜しく高位に在るべし。

(訳) 高い地位にいるのがよい。

35 不<sup>ト</sup> 宜<sup>シク</sup> 処<sup>ル</sup> 位<sup>ニ</sup>。

(書) 宜しく位に処るべからず。

(訳) 高い地位にいるのはよくない。

36 不<sup>ト</sup> 宜<sup>シク</sup> 近<sup>ヅク</sup> 之<sup>ヲ</sup>。

(書) 宜しく之を近づくべからず。

(訳) この者を近づけるのはよくない。

37 須<sup>ラク</sup> 及<sup>ブ</sup> 春<sup>ニ</sup>。

(書) 須らく春に及ぶべし

(訳) 是非春に行わなければならない。

38 須<sup>ラク</sup> 用<sup>キル</sup> 読書人<sup>ヲ</sup>。

(書) 須らく読書の人を用ゐるべし。

(訳) 是非知識人を登用しなければならない。

39 須<sup>ラク</sup> 用<sup>キル</sup> 長槍大劍<sup>ヲ</sup>。

(書) 須らく長槍大剣を用ゐるべし。

(訳) 是非長いやりと大きな剣を用いなければならない。

40 猶<sup>ホ</sup> 不<sup>ル</sup> 及<sup>バ</sup>。

(書) 猶ほ及ばざるがごとし。

(訳) ちょうど足りないのと同じである。

41 猶<sup>ホ</sup> 其有<sup>ルガ</sup> 四体<sup>一</sup> 也。

(書) 猶ほ其の四体有るがごときなり。

(訳) ちょうど人に手足があるのと同じである。

42 猶<sup>ホ</sup> 魚之有<sup>ルガ</sup> 水也<sup>ト</sup>。

(書) 猶ほ魚の水有るがごときなり。

(訳) ちょうど魚に水があるのと同じである。

43 猶<sup>ホ</sup> 湍水<sup>一</sup> 也。

(書) 猶ほ湍水のごときなり。

(訳) ちょうど流れの急な川と同じである。

44 猶<sup>ホ</sup> 龍<sup>ノ</sup> 乎。

(書) 其れ猶ほ龍のごときか。

(訳) ちょうど龍と同じであるなあ。

45 由<sup>ホ</sup> 古之樂<sup>一</sup> 也。

(書) 由ほ古の樂のごときなり。

(訳) ちょうど昔の音楽と同じである。

46 由<sup>ホ</sup>今<sup>ニ</sup>之<sup>ル</sup>視<sup>ガ</sup>昔<sup>ヲ</sup>。

(書) 由ほ今の昔を視るがごとし。

(訳) ちようど今の人が昔を振り返るのと同じである。

47 由<sup>ホ</sup>水<sup>ニ</sup>之<sup>キ</sup>就<sup>テ</sup>下<sup>キ</sup>沛<sup>タル</sup>然<sup>ガ</sup>。

(書) 由ほ水の下きに就きて沛然たるがごとし。

(訳) ちようど水が低い所に向つて勢いよく流れるのと同じである。

48 由<sup>ホ</sup>射<sup>ル</sup>於<sup>ニ</sup>百<sup>ガ</sup>歩<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>外<sup>ニ</sup>也<sup>一</sup>。

(書) 由ほ百歩の外に射るがごときなり。

(訳) ちようど百歩離れた遠くを弓矢で射当てるのと同じである。

49 由<sup>ホ</sup>反<sup>ス</sup>手<sup>ガ</sup>也<sup>ヲ</sup>。

(書) 由ほ手を反すがごときなり。

(訳) ちようど手を裏返すのと同じ(くらい簡単)である。

50 盍<sup>ソ</sup>各<sup>ハ</sup>言<sup>ノ</sup>爾<sup>ヲ</sup>志<sup>一</sup>。

(書) 盍ぞ各爾の志を言はざる。

(訳) どうして各自があなた達の抱負を言わないのか。

51 盍<sup>ソ</sup>以<sup>テ</sup>疾<sup>ヲ</sup>辞<sup>セ</sup>。

(書) 盍ぞ疾を以て辞せざる。

(訳) どうして病氣という理由で辞退しないのか。

52 盍<sup>ソ</sup>去<sup>ラ</sup>諸<sup>ヲ</sup>。

(書) 盍ぞ諸を去らざる。

(訳) どうしてここを去らないのか。

53 盍<sup>ソ</sup>亦<sup>ラ</sup>反<sup>ニ</sup>其<sup>ノ</sup>本<sup>ニ</sup>矣<sup>一</sup>。

(書) 盍ぞ亦其の本に反らざる。

(訳) どうして(古代の聖王と)同様に、根本に立ち戻らないのか。

54 子<sup>ル</sup>盍<sup>ニ</sup>為<sup>レ</sup>我<sup>ガ</sup>言<sup>ハ</sup>之<sup>ヲ</sup>。

(書) 子盍ぞ我が為に之を言はざる。

(訳) あなたはどうして私のためにこれを言わないのか。